

学校評価計画

平成22年度 学校自己評価シート

福生市立 福生第一中学校 校長 新藤 美知子 印

学校教育目標 健康で思いやりのある人をめざし ◎すすんで学び、よく考えよう ・正しく判断し、実行しよう

目指す学校像（ビジョン・ミッション）

本校は、人生初期の基礎的教育の場であり、それ故一人一人の生き方に及ぶ影響力持つ場である。加えて、保護者の不運や不幸を身に負って成長する生徒が多い本校の実情を踏まえる時、本校の役割は一層重大であると認識している。いかなる生徒にも「一中で過ごし、学べてよかった」と実感させるに足る3年間の「学び」と「出会い」を保証し、その進路を拓くことが本校の使命であり、責任である。社会の一角であることの認識と柔軟な組織対応をもって生徒一人一人に向き合うことをモットーに学校経営を進める。

【目指す学校像】 仲間と共に伸びる学校 ・学ぶ期待の在る学校（分かる喜び） ・感動と活力のある学校（切磋琢磨、やり遂げた喜び） ・規律正しい学校（自律、共生）	【目指す教師像】 社会人として未来を展望し常に進化できる教師 ・柔軟な発想で指導力向上に取り組む教師 ・既成概念にとらわれず課題に挑む教師 ・生徒、保護者に向き合う対話力と育成に対する使命感を持った教師	【目指す児童・生徒像】 自らの志をもち、 ・諦めずに努力する生徒 ・逃げずに挑戦する生徒 ・立ち止まらずに進進する生徒	【その他 特記事項】
---	---	---	------------

領域	三カ年経営目標	本年度経営目標	目標達成のための方策	取組指標（教職員の取組）	取組自己評価			成果自己評価			分析・改善策					
					当初	中期	年間	評語	当初	中期		年間	評語			
学力向上	極端な二極化による学力格差を是正するため基礎基本の定着による確かな学力を向上させる。	・授業力の向上  ・学習意欲の向上  ・学習態度の向上	・専門家による校内研修 ・特別支援学級との交流により教員の特別支援教育の視点及び指導手法の獲得  ・3教科朝学習による反復学習の徹底 ・個に応じた外部人材の有効活用 ・各種検定試験への取組  ・チャイム着席、私語、居眠り忘れ物についての取り組みの徹底（委員会活動の活性化）	○教職員の達成度評価100% A教職員の達成度評価80%以上 B教職員の達成度評価50%以上 C教職員の達成度評価50%未満	目標	B				○生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価100% A生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価80%以上 B生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%以上 C生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%未満	目標	B				
				○全学年5教科実施 A学年、5教科の実施率80%以上 B学年、5教科の実施率50%以上 C学年、5教科の実施率50%未満	目標	B				○生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価100% A生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価80%以上 B生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%以上 C生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%未満	目標	B				
				○全教員が取り組みを実施 A実施率80%以上 B実施率50%以上 C実施率50%未満	目標	B				○生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価100% A生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価80%以上 B生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%以上 C生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%未満	目標	B				
学校運営	学校課題への組織的な対応	・不登校の解消  ・小中連携  ・学校評価の充実と活用	・特別支援委員会の定例化による情報の集約と迅速、適切な対応 ・外部人材及び外部機関の適切な活用 ・スパーバイザーとしてのSCの活用の拡大  ・3校校長連絡会の定例化による連携の検討 ・小中合同研修会による学習課題の検討 ・交流授業の実施 ・外部評価の実施 ・各主任、小学校長、PTAの参加により学校評議会の活性化と本来の役割の充実を図る。	○全学年の対象生徒について実施 A実施率80%以上 B実施率50%以上 C実施率50%未満	目標	B				○不登校生徒全員の復帰 A不登校生徒全員の「学びの場」を確保 B不登校生徒50%以上の解消 C不登校生徒50%未満の解消	目標	B				
				○新たな方策の実施、検証 A新たな方策の決定と計画作成 B課題の共通理解と方策の方向性確保 C検討に終了	目標	B				○小中保護者のアンケートによる肯定的評価100%以上 A小中保護者のアンケートによる肯定的評価80%以上 B小中保護者のアンケートによる肯定的評価50%以上 C小中保護者のアンケートによる肯定的評価50%未満	目標	B				
				○提言の作成と次年度重点実施の確保 A教職員の達成度評価80%以上 B教職員の達成度評価50%以上 C教職員の達成度評価50%未満	目標	B				○提言の作成と次年度重点実施の確保 A評議員の達成度評価80%以上 B評議員の達成度評価50%以上 C評議員の達成度評価50%未満	目標	B				
生活・進路指導	自助作用の機能する集団の育成	・コミュニケーション力の育成  ・基本的生活習慣の確立  ・規範意識の育成	・本年度研究課題として取り組み、実践、検証する。  ・服装、挨拶、遅刻、美化についての自主的な取り組みの指導、推進（生徒会、委員会活動の活性化）  ・キャリア教育の一環としての取り組みを図る。 ・道徳授業の確保と充実	○全学年級、全教科での実践、検証 A実施率80%以上 B実施率50%以上 C実施率50%未満	目標	C				○生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価100% A生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価80%以上 B生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%以上 C生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%未満	目標	B				
				○全学年で取り組み実施 A実施率80%以上 B実施率50%以上 C実施率50%未満	目標	B				○生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価100% A生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価80%以上 B生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%以上 C生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%未満	目標	B				
				○全校的な取り組みとして定着 A全校的な取り組みを計画的に実施 B学年、委員会の取り組みとして実施 C学年が委員会の取り組みとして実施	目標	C				○生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価100% A生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価80%以上 B生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%以上 C生徒、保護者のアンケートによる肯定的評価50%未満	目標	B				
人材育成	OJT機能のシステム化	・全教員のOJT理解と意識化の徹底  ・OJT組織の活性  ・指導者の確定	・本校の実情と都教委資料を基にした研修の実施 ・日常的な適時の啓発  ・OJT委員会の設置 ・OJTの方針、計画の明示 ・各主任の役割を具体化 ・計画的な時間の確保  ・4名の若手(内1名が新採)の指導者を確定 ・互いの話し合いで内容確認	○教職員達成度評価100% A教職員達成度評価80%以上 B教職員達成度評価50%以上 C教職員達成度の評価50%未満	目標	B				○教員相互評価で肯定的評価100%以上 A教員相互評価で肯定的評価80%以上 B教員相互評価で肯定的評価50%以上 C教員相互評価で肯定的評価50%未満	目標	B				
				○教職員達成度の評価100% A教職員達成度の評価80%以上 B教職員達成度の評価50%以上 C教職員達成度の評価50%未満	目標	C				○教員相互評価で肯定的評価100%以上 A教員相互評価で肯定的評価80%以上 B教員相互評価で肯定的評価50%以上 C教員相互評価で肯定的評価50%未満	目標	B				
				○次年度担任として不安のない成長 A次年度適宜の支援で担任可能 B次年度の担任としての支援が必要 C明確な成長が見られない	目標	B				○教員相互評価で肯定的評価100%以上 A教員相互評価で肯定的評価80%以上 B教員相互評価で肯定的評価50%以上 C教員相互評価で肯定的評価50%未満	目標	B				

前年度の学校評価をいかして、4月時点でビジョン・ミッション、各目指す像、各目標、方策、指標を設定する。提出時期に応じて、その時点での達成度を自己評価欄に記入する。自己評価の評語は最終段階で、目標の5割未満はC、8割未満はB、10割未満はA、目標超えはOの評語を記入する。